

G 地域の学校との連携校事業（コアSSH（岡崎高校）連携事業）

1 尾張・名古屋・知多地区連携SSH文化講演会「思うは招く一夢があればなんでもできる」

(1) 仮説

子供のころから宇宙にあこがれ、民間企業として前例のない実験に取り組む中でどんな苦労があったのか。若者に今、最も必要なものは何か。技術者として大切なことは何か。本講演を機会として、生徒がこれから何を学ぶべきなのかを考えさせていくことがねらいである。

(2) 方法

ア 地域(または県下)の理科教育における位置づけとねらい

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また近隣の中学の代表者や地域の高等学校の希望教員に参加してもらうことで、一宮高校SSHへの理解を深めることを目的としている。

イ 連携先・対象と規模

連携先：株式会社植松電機

専務取締役 植松 努 先生

対象と規模：本校生徒1,083名、教員45名、保護者93名、一宮市内中学生41名、同教員17名、尾張・知多地区の高等学校の教員6名、その他1名



講演の様子

ウ 内容

(7) 事業の概要と現状の分析

植松先生は民間企業でロケットを打ち上げるといふ前例のない実験に取り組みされており、その体験談を講演していただいた。

(4) 事業の取組

実施日時 10月3日(木)

13:00~15:00

実施場所 一宮市民会館大ホール

注意・工夫した点

できるだけ多くの質問が受けられるように質問の時間を長く設定した。また講演後には懇談会を実施した。

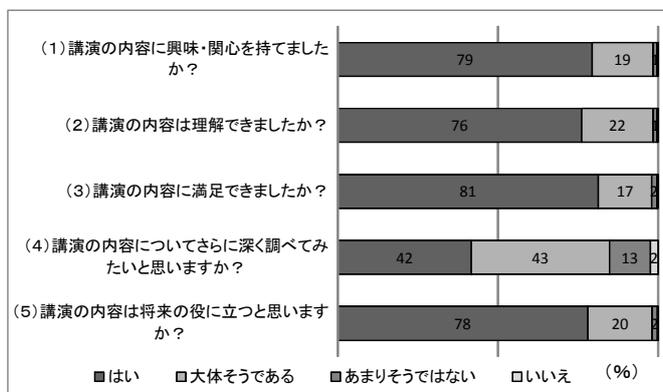


懇談会の様子

(3) 検証

ア 生徒の事後アンケートから

パワーポイントを駆使した、時にユーモアを交えながら生徒の関心を引き付け、情熱的で奥の深い講演会であった。「失敗してもあきらめない」「前例のないことでも勇敢にチャレンジする」「好きなことは粘り強くやる」などを生徒に熱く語られた。非常に多くの生徒が講演の内容に興味・関心をもてたと回答していた。また、実体験に基づいた講演で内容もわかりやすく、生徒の感想の中にも「今までの講演の中で一番よかった」というものが数多くあり、多くの生徒の心に響いたようである。



イ 今後の事業に向けて

今後も生徒の意欲が高まるような講演会を企画していきたい。